

6 みなみ

2026
毎月15日発行

市民しんぶん南区版

南区総人口：103,027人

世帯数：55,520世帯

令和8年5月1日現在(推計人口)

<https://www.city.kyoto.lg.jp/minami/>

大雨の季節!! 出水期に備えよう

6月から10月は、出水期と呼ばれ、大雨や台風が多く発生し、河川の氾濫や道路の冠水など水害が発生しやすい時期です。

近年では、台風だけでなく、大雨、特に「線状降水帯」による甚大な被害が全国で多発しており、注意が必要です。線状降水帯による集中豪雨の発生が予測される場合は、気象庁が「顕著な大雨に関する気象情報」を発表します。



南区広報キャラクター「ナンナン」

ないすいはらん 内水氾濫とは

令和6年8月25日、一時的な豪雨により、猪熊通のJR京都線との立体交差点(アンダーパス)北側(下京区)で道路冠水がありました。

写真では、救助隊の腰付近まで水が浸かっている様子が分かります。

「内水氾濫」とは、大雨の際、下水道や排水路等の処理能力を超え、あふれ出した水によって建物や道路が浸水することを指します。

河川の水位が上がる「外水氾濫」とは異なり、市街地の排水機能が追いつかないことで発生するため、比較的平坦な土地が多い南区でも注意が必要です。

内水氾濫は、場所を問わず突発的に起こります。このため、日頃から「避難場所」や「冠水しやすい場所」など、周囲の環境を確認しておくことが大切です。

6月から、これまでのハザードマップに、「中小河川の洪水」と「内水氾濫」が新たに加わりました。リスク管理や避難経路の確認にご活用ください。

ハザードマップの詳細はこちらから→



防災に関する情報は こちらから→



チャレンジ! 防災クイズ

今からできる水害対策! 防災クイズの答えと一緒に対策のポイントを解説します!



Q1 以下の状況のうち、内水氾濫はどれでしょう?

- A 大雨で川が増水し、堤防が決壊する
- B 下水道や水路の容量を超えた水があふれる
- C 地震で地盤が液状化する

内水氾濫とは、河川の氾濫とは別で、降った雨が、下水道・側溝・排水施設等でさばききれず、行き場を失った水が、低い場所や道路にあふれて起きる浸水を指します。

答え B

Q2 内水氾濫時の避難として適切な行動はどれでしょう?

- A 雨が止んでから避難場所へ向かう
- B 避難指示が出るのを待つ
- C 道路が冠水し始めたら高い場所に避難する

内水氾濫は、予測が難しく、短時間で浸水するリスクがあります。冠水が深くなる前に、安全な場所へ移動することが大切です。

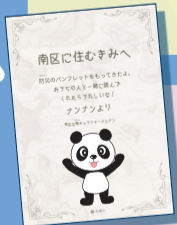
答え C

Q3 内水氾濫や浸水被害に備えて家庭でできる対策はどれでしょう?

- A ハザードマップを確認し、避難経路を決めておく
- B 土嚢(どのお)を常備する
- C 公園を通り抜ける避難経路を決めておく

ハザードマップなどを確認し、自宅周辺のリスクを把握しておくことが命を守る第一歩です。また、事前に高い場所や避難先までのルートを確認しておくことが大切です。

答え A



小学生と保護者向け防災パンフレットを、開建高校防災ボランティアメンバーと作成しました! ぜひ、ご家族で防災について話し合うきっかけにしてください。

詳細はこちらから→



問 地域力推進室(総務・防災担当) ☎681-3439・3階33番窓口